

西南シルクロードと雲南の棚田文化—アッサム・ブラマプトラ河谷丘陵を含む少数民族の生活基盤—

安藤和雄（京都大学東南アジア研究所）

I. はじめに—ハニ族の棚田農業はヒマラヤ東南部にルーツあり？—

1. 日本の中山間地の棚田農業をアジアからの視点に置くことで考えたい
2. 世界一の棚田農業である雲南のハニ族の棚田農業にヒントを探る
3. ハニ族の棚田農業のルーツ⇒ブラマプトラ河谷丘陵の棚田農業への関心
4. アパタニ族の棚田農業（焼畑的水田稲作）とハニ族の棚田農業を結ぶ人の移動を可能にした街道の存在とチベット=ビルマ語族の民族分布⇒南西シルクロード⇒雲南とブラマプトラ河谷丘陵の結びつき
5. ブラマプトラ河谷丘陵周辺に紀元前10世紀頃には住んでいた古いチベット=ビルマ語族の古代民族キラータの存在⇒古い時代に古代民族羌（キョウ）はヒマラヤ南面とヒマラヤ北面のチベット台地に分布域を広げていた？
6. 本発表は、安藤和雄「西南シルクロードと焼畑的水田稲作からひもとくヒマラヤ東部—地域体系研究の端緒として—」『ヒマラヤ学誌』No. 8 2007年3月：57-76. に沿っている。

II. 雲南省紅河州哈尼族の棚田農業—棚田はアジアの原風景—（棚田学会シンポジウム「棚田からアジアが見える」2004年8月10日発表）

1. はじめに—アジアの原風景としての棚田—
2. アジアの隣人から学ぼう
3. 調査地の概要
4. 畑の存在
5. 主食を補ったトウモロコシ飯
6. 棚田農業体系
7. 梯田と梯地の持続性のメカニズム
8. 持続的な棚田農業体系はどこから
9. おわりに—日本における棚田を保全する意義：アジアの一員である生き証人として—

III. インド・アルナチャールプラデシュ、アパタニ族の無犁稲作

に関する予備的調査（日本熱帯農業学会第96回講演会2005年10月15日発表）

1. 中国雲南省紅河州甲寅郷哈尼（ハニ）は水牛の牽引により有犁無犁棚田稲作をおこなっている。そのルーツを考えている。
2. ミャンマーでは、犁が古くはあまり使われていないことが知られている。イラワジデルタの水牛の牽引による有犁無犁棚田稲作が行われている。犁の欠落は珍しいことか？
3. 畜力利用による犁耕は水田稲作にとってなくてはならない根幹的技術要素とはいえないのでは？

IV. 哀牢山地ハニ族の棚田農業のルーツの仮説的考察

1. ハニ族棚田稲作は焼畑的稲作をルーツとする。アパタニ族の棚田稲作との類似
2. 犬と絡む稲作栽培のはじまりの伝承
3. ハニ族を構成する民族の多くは焼畑民族（ヒマラヤ南東は多雨な焼畑と焼畑的水田の世界<キラータ>、ヒマラヤ北東は半乾燥の畑作の世界<羌（キョウ）>）
4. ヒマラヤ東南面の多雨焼畑・焼畑的水田稲作地帯から南西シルクロードを經由し哀牢に向かった人々（稲作技術）が焼畑水田稲作適地を哀牢山地にも求めた